

## 近代朝鮮における「婦人」の形成プロセスと女子中等教育

The formation process of “women” and girls’ secondary education in modern Korea

崔 誠姫 (Choi Seonghee)

本研究は19世紀末に始まる朝鮮の近代において女子教育、特に女子中等教育がどのように展開し、それが朝鮮社会における「婦人」の形成にどのように影響を及ぼしたのかを明らかにすることを目的とした。これまで朝鮮の女子中等教育はミッションスクールの形成史、あるいは日本の植民地支配に対する抗日運動史、良妻賢母育成の側面からのみ考察されてきた。本研究はそれらの側面からの考察はもちろん、中等教育から中等教育後の朝鮮女性の歴史を多角的に考察した。

2023年度は学内研究組織の研究費を使用して2か所の資料調査を実施した。一か所目は2024年3月に韓国国立中央図書館（ソウル特別市）での資料調査である。ここでは1920～30年代の女子中等教育に関連する資料を中心に収集した。特にこの時期に設立された女子高等普通学校の同窓会資料、校長会議の会議録などを収集した。同窓会資料は大韓帝国の皇族が設立し、上層の女子が通っていた淑明女子高等普通学校のものを中心収集した。淑明女子高等普通学校の卒業生は淑女会という同窓会組織に所属し、朝鮮の上層主婦としてそのプレゼンスを示していた。まさに本研究がテーマとする「婦人」の形成プロセスが同窓会資料から明らかになるのである。

二か所目は同じく2024年3月に岩手県立図書館にて女子教育家の淵澤能恵に関する資料を収集した。淵澤能恵は岩手県花巻出身で同志社女子専門学校を経て、上記の淑明女子高等普通学校の教員として朝鮮に渡った。淵澤の経歴は本研究において非常に重要であり、岩手地域の人々が行っている淵澤能恵を顕彰する会の記録などを収集した。なお淵澤は愛国婦人会朝鮮支部においても非常に重要な役割を果たした人物であり、当時の朝鮮「婦人」の在り方が淵澤の資料を通じて浮き彫りになった。

これら二か所で実施した資料調査は本研究の成果の1つである『女性たちの韓国近現代史—開国から「キム・ジョン」まで』（慶應義塾大学出版会、2024年10月）の刊行にも大きく寄与した。なお本書の刊行にあたりお茶の水女子大学大学院博士課程の大室恵美氏に校正・ファクトチェックを依頼した。大室氏の謝札は学内研究組織の研究費により支給されている。また、本研究で得た成果は2024年度に採択された科研費：基盤研究C「近代朝鮮における女性専門職に関する研究：教員・医師を中心に」にもつながっている。